ASBJ

第 587 回企業会計基準委員会

審議事項(2)-2

日付　2026 年 11 月 2 日

プロジェクト	IFRS 財団公開草案「IFRS 財団『定款』の的を絞った修正案」への対応
項目	第 586 回企業会計基準委員会で聞かれた意見

I. 本資料の目的

1. 本資料は、第 586 回企業会計基準委員会（2026 年 10 月 20 日開催）において、IFRS 財団公開草案「IFRS 財団『定款』の的を絞った修正案」への対応及びコメント・レターの文案について聞かれた意見をまとめたものである。

II. 聞かれた意見

2. コメント・レターの全体的な方針に賛成する。

3. サステナビリティ基準委員会と連名でコメント・レターを提出することに賛成する。

4. コメント・レターの文案第 17 項の代替案の提案において、IASB に関しては、各地域の定員が従来の 4 名から 3 名に減少することとなっており、議長及び副議長以外の全体枠メンバーについても「その他（必要ある場合）」という形でこれまで存在しなかった枠を容認するような表現になっているように見える。我々の意見を明確に反映するため、我々の提案は IASB については現状どおりの定数（アジア・オセアニア、欧州、アメリカ大陸各 4 名、アフリカ 1 名）とし、全体枠メンバーについても「その他（必要ある場合）」を記載しない方がよいのではないかと考える。

5. 特定の法域のための提案ではなく、全体を適切に運営するための提案であるということを合理的に示すため、人数配分を提案するにあたっては裏付けとなるロジックを示すことができればよいと考える。

6. 地域選出の IASB/ISSB メンバーの責任の記載において、「代表する」という表現を用いると特定の地域との結びつきが強調され独立性が損なわれている印象を受けるため、「アウトリーチ責任を有する」というような表現を用いれば IFRS 財団も受け入れやすいのではないかと考える。

以　上